

群馬・安養寺森西遺跡
あんようじもりにし

- 1 所在地 群馬県新田郡尾島町安養寺
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)四月～一〇月
- 3 発掘機関 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査担当者 飯田陽一・関根慎二・樋口伸男
- 5 遺跡の種類 集落跡・畑跡ほか
- 6 遺跡の年代 六世紀～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(深谷)

安養寺森西遺跡は東武伊勢崎線太田駅の南西約8km、東流する利根川左岸の畑作地域に位置している。遺跡付近の地質および地形は、台地形成層の上に利根川の氾濫堆積物が厚く覆い、自然堤防に似た低台地となっている。付近の標高は三三m前後である。

遺跡の調査は上武道路(国道一七号線バイパス)建設に伴うものであり、尾島町内では一九八五年から一九

八八年まで、延長約一・三kmの範囲の全域で断続的に行なわれた。現状は道路となり、遺跡は湮滅している。

検出された遺構は時代・種類ともに多岐にわたるが、主なものは古墳時代の畑、奈良・平安時代の集落、中世館跡および中近世の井戸群などである。

井戸は総数一三基で、このうち木製品が出土したのは一九世紀前半の井戸である。「蘇民将来」の護符のほか、櫛、漆塗碗、曲物、井桁、果核などが出土している。肥前系磁器が多量に共存しており、これを年代推定の根拠とした。

一九九三年度の後半より整理作業に着手し、翌年度に報告書刊行の予定である。

8 木簡の积文・内容

- | | | | |
|------|-------|-------|-------|
| (1) | ・「民」 | (2) | ・「蘇民」 |
| ・「来」 | ・「将来」 | ・「之」 | ・「之」 |
| ・「之」 | ・「之」 | ・「孫也」 | ・「孫也」 |
- 33×8×10 061 39×14×13 061

(3)

・「ッ」
 ・「みん」
 ・「志やう」
 ・「らい」
 ・「し」
 ・「そん」
 ・「□」
 ・「□」
 29×21×20 061

(4)

・「ソ」
 ・「ミン」
 ・「シャウ」
 ・「ライ」
 ・「ノ」
 ・「子」
 ・「ソン」
 ・「ナリ」
 25×16×16 061

(5)

・「□」
 ・「民」
 ・「□」
 ・「来」
 ・「子」
 ・「□」
 ・「乃」
 ・「□」
 31×24×24 061

(6)

・「□」
 ・「□」
 ・「将」
 ・「来」
 ・「之」
 ・「子」
 ・「ソ」
 ・「ナリ」
 29×17×16 061

9 関係文献

六本の護符が同一の井戸の下層から一括出土した。すべて材の中心を使用している。(1)(2)は四角柱、(3)は八角柱でいずれも上辺を尖らせている。(1)と(5)は中央に貫通した孔があり、棒状具を装着した痕跡が認められる。上下両面を除き周囲の全ての面に墨書がある。墨痕は比較的鮮明であったが、出土後の退色もあり判読は赤外線写真によるところが大きい。

（勸群馬県埋蔵文化財調査事業団『年報八』（一九八九年）

（飯田陽二）

